

名古屋市立大学大学院経済学研究科
教授 出口将人

産業集積の環境適応と変革についての研究
— 鯖江の越前漆器産地の事例を中心に —

(要旨)

March 2024

The Society of Economics Nagoya City University
名古屋市立大学経済学会

産業集積の環境適応と変革についての研究¹
— 鯖江の越前漆器産地の事例を中心に —

名古屋市立大学大学院経済学研究科
教授 出口将人

目次

- I. はじめに
- II. 背景と課題
- III. 調査の対象と方法
- IV. 事例 鯖江産地の発展と変革の歴史
- V. 発見事実とインプリケーション
- VI. 結びにかえて

要約

地域経済の担い手として、伝統産業を含む地場産業はきわめて大きな役割を担ってきた。しかし近年、その多くが縮小、衰退しつづけており、崩壊の危機にさえ直面するという状況にある。それらを再び活性化することが重要かつ喫緊の社会経済的な課題となっている。

本稿では、この課題にたいする取りくみの一つとして、主として経営学における産業集積にかんする最近の議論を手がかりに、福井県鯖江市を中心とする越前漆器の産地の事例にもとづき、望ましい産業集積のあり方、外部環境の変化に対応した産業集積の変革にかかわる諸問題とそれへの対応について考察する。この考察をつうじて、おおよそ以下の4点が確認あるいは仮説的に提示される。第一に、望ましい産業集積のあり方は環境に応じて変化するということである。第二に、特定の条件のもとで強みを発揮する産業集積の特質は環境変化にたいして脆弱であるということである。第三に、そうした産業集積の特質は環境変化への対応において障害になりうるということである。そして第四に、産地の危機的な状況において、そうした障害を乗り越えて産地の環境適応や変革を実現するうえで、地域や産地に強くコミットしたプレーヤーの企業家的な行動が大きな役割を果たしうるということである。

¹ 本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C）、課題番号 20K01914、研究代表者：出口将人）による研究成果の一部である。